

## 「伊勢」と日本スタディプログラム リポート

Nathan Woolley

ネイザン・ウーリー

(オーストラリア)

The Ise-Japan Study program was an opportunity to study the history of the Grand Shrines in Ise and their place in local society and Japanese history more generally. Due to its ties to modern Shinto practice, Kogakkan University is an institution uniquely placed to teach about how the shrines are understood in modern Japanese scholarship. Material concerning Saikū, Oshiodono-jinja and auxiliary shrines provided a broader perspective on the rituals of the Grand Shrines in relation to the Ise region. Due to the breadth of expertise among the academics delivering lecturers as part of the program, Japanese religious practice was also placed in the context of material culture and historical change in local society and economic development. The field study allowed students to gain a better understanding of the content of the lectures by seeing sites and objects in their geographical context. Visits to Kawaskai, Furuichi, Kamiyashiro port and Ōminato were an opportunity to see how the proximity of the Grand Shrines impacted on local society. The visit to Maruoka Villa demonstrated the various roles played by onshi in local society. Visits to local museums and sites in Ise also made apparent the efforts of local people as well as the staff and students of Kogakkan University to preserve sites of historical interest. Furthermore, the explanations by practicing Shinto priests working in the university and at Yasaka and Kasuga Shrines were an opportunity to see how religious practice related to social context.

皇學館大学の多くの優れた講師陣による、日本の文化や宗教に関する様々な授業を受けることができ、非常に素晴らしい機会であった。伊勢の歴史や文化を通じ、日本全般についての理解を深めることができた。授業では、伊勢についての豊富な内容、歴史的資料、地理的な知識を学び、今後、私の日本全体に対する理解や研究に重要な影響を与えらると思う。

お伊勢参り、祭式に関する道具、御札の形や使い方、御師の活動などが互いにどのような影響を与え合っていたのか、非常に興味深く、実際、それらに関係するものを目の当たりにすると、自分の研究に不可欠である好奇心を大きく刺激した。特に、御師に関する江戸時代の古文書を読み、御師の活動が当時、社会に及ぼした役割が多面的であったこと、また、近代史の複

雑さに直面した。皇學館大学図書館や神宮文庫を訪れ、皇學館大学の選れた研究環境を確認でき、皇學館大学は日本宗教の研究において、特別な位置にあることを理解した。

このプログラムには、多くのフィールド・スタディが盛り込まれ、伊勢の歴史や現在状況を研究することにおいて、非常に特別な機会であり、プログラムの大きな役割を果たした。多くの神社を見学し、実際の活動や社会的な意味について理解を深めた。特に春日大社や八坂神社の現場で、多くの実戦経験を持つ神職の説明を聞き、神道が持つ精神的な意味を感じることができた。伊勢神宮の歴史に関し、事前に講義で学んでから、齋宮のフィールドや博物館、神宮の御塩殿神社・御塩浜等の現場を訪れると、イメージで描いた内容が現実化し、よりわかりやすくなった。現在、外宮で頒布される神宮大麻に使用される和紙を作る工場の外観をみて、市井の中に神宮が求める役割、外部との連携が必要不可欠で、宗教以外における運営の複雑さを知るに至った。地域の歴史に対する理解には、フィールドでの学習が不可欠であり、現場を見学することは、最もよい方法である。河崎、古市、大湊、神社の道やそれぞれの博物館で、近代における伊勢市の経済発展、神宮との関係、日本全体の近代史との関係をより深く学ぶことができた。

現在でも、伊勢市に残されたものの多くから、歴史の意味を体感することができる。授業で御札について学んだが、外宮の近くにある丸岡邸では、享保 21 年(1736)に作られたという剣先祓いの御札製作で用いた版木が並んでいた。展示の中には、御師文化の豊かさや伊勢が持つ歴史を窺い知ることができた。展示スペースの脇にある部屋にも展示しきれない数々の歴史的な品々、また邸の中にはいくつもの部屋があり、丸岡邸とそこに所蔵されているものを見学すると、伊勢市民が多くの努力を払い、その歴史的遺産が継承されてきたことを認めなければならなかった。また、皇學館大学の講師や学生たちが伊勢の歴史を継承するために様々な市民活動に参加し、大学が社会に対する責任を意識しながら、教育以外での重要な役割を果たしていることが明らかになった。フィールド学習を通じ、最も印象に残ったことは、伊勢にはまだ追究されていない歴史が多いことである。

「伊勢」と日本プログラムに参加し、今後、日本の宗教や伝統的な風俗・習慣について、さらに研究を深めることを約束して、今後も皇學館大学との研究交流を続けていきたい、また、このプログラムをオーストラリア人の学生に薦めたいと思っている。

